

2 学校課題

1 研究主題

自ら学び、深く考える子どもの育成
～「考える」「学び合い」を大切にした授業づくりを通して～

2 はじめに

昨年度の学校課題は、過去3年間の研究の成果や課題から「自ら学び、深く考える子どもの育成 ～基礎・基本の確実な定着と「考える」「学び合い」を大切にした授業づくりを通して～」として、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」と、「『考える』『学び合い』を大切にした授業づくり」の2点を重点とし、研究を進めた。その結果、以下のような成果が認められた。

- ・ぐんぐんタイムを活用することで、基礎・基本の定着が図れた。その結果、学力が向上した児童が見られた。
- ・一人学びの時間や書く活動を通して自分の考えを明らかにし、自分の考えを表現することができるようになってきた。また、他者の意見を聞いたり取り入れたりする力も向上してきた。

感染症予防による学習活動の制限もなくなり、ペアやグループでの話し合いをはじめとする学び合いや協働的な学びを行いやすい環境になってきたが、それらの活動を通して児童が深い学びに至るには、さらなる指導の工夫が必要である。

そこで令和6年度は、「『考える』『学び合い』を大切にした授業づくり」を重点課題として研究を進め、学校教育目標のめざす児童の姿である「自ら学び、深く考える子ども」に迫りたいと考える。

3 研究の内容

「自ら学び、深く考える子ども」の育成に向けて、学習指導全体計画の努力点及び具体的な取組の徹底実施を行う。特に、「大谷東学習スタンダード」の流れに沿った授業づくりや、必要に応じて思考ツールや ICT 機器の適切な活用を行う。

4 研究の方法

① 授業における指導の工夫

- ・「大谷東学習スタンダード」を活用し、自分の考えやその理由を「書く」活動を取り入れる。また、考えを説明させる時間の確保及び考えを選択・吟味する時間の確保をする。
- ・言語環境を整え、各教科等の特質に応じ、言語活動の充実を図る。必要に応じて、思考ツールやICT機器の適切な活用を図る。
- ・友達の考えを聞いてメモをとり、自分の考えを深めたり、友達の発言を発展させたりするための手立てを講じる。(教師のコーディネート)
- ・振り返りの時間を確保し、学習の自己調整を意識させた振り返りの充実を図る。

② 家庭学習の充実と学習環境づくり

- ・新出漢字の指導の仕方、漢字スキル、計算ドリルの取り組ませ方を検討し、学習する学年(漢字の書きに

おいてはその次の学年)で確実に定着するようにさせる。

- ・6年間の学習の系統性を考慮し、必要に応じて前学年の復習を行ったり、ヒントとなる掲示物を掲示したりする。(特に算数)
- ・児童用学習端末(タブレット)の学習ソフトを活用し、各児童に応じた基礎基本の復習に取り組ませる。
- ・授業の振り返りで自分の学習状況を振り返らせ、自主学習のヒントが得られるようにする。
- ・自主学習で学習の自己調整を行うための補助プリントを活用する。(100マス計算、視写など)

③ 研究教科

- ・国語、算数の授業を通して研究を進める。学年部会を中心に継続して研究を進める。必要に応じて学年ブロックで指導案検討会なども行う。学年の研究授業は、学年担任全員で行う。

④ 研究状況のまとめ

- ・特に重点課題に対する成果と課題をまとめる。児童の変容の様子でまとめるようにする。

5 研究組織

※学校課題研修は職員研修の一環として行う。



※推進委員会メンバー …… 校長、教頭、主幹、児童指導主任、各学年主任、学習指導主任
司会進行は学習指導主任が行う。

※教科主任は必要に応じて、学校課題推進委員会や学年部会に参加する
原則、無担は関係の深い学年に所属する。